

第 1 分 科 会

会場 オリエンタルホテル福岡
博多ステーション
3階 「YAMAKASA A」

分科会テーマ

「中体連の組織及び競技会の在り方とその運営」

研究発表

- ◆ 藤 池 由 香 大阪市中学校体育連盟 副理事長
 大阪市立旭陽中学校
- 廣 山 真由美 大阪市中学校体育連盟 顧問
 大阪市教育局事務局 指導部
 保健体育担当 保健体育グループ

「 中体連組織の現状と課題 」
～時代に応じた持続可能な中体連～

- ◆ 賀 好 行 彦 徳島県中学校体育連盟 理事長
 徳島市徳島中学校

「 地域の実態に応じた中体連主催大会の在り方 」
～特色ある運営と今後の展望～

紙上発表

- ◆ 釜 付 純 次 鹿児島県中学校体育連盟 副理事長
 阿久根市立鶴川内中学校

「 コロナ禍における新たな取組 」

指導助言者	(公財)日本中学校体育連盟	副 会 長	大 塚 洋 一
司 会 者	鹿児島県中学校体育連盟	会 長	大 塚 公 明
運営責任者	鹿児島県中学校体育連盟	副 会 長	大 前 田 伸 行
記 録 者	福岡大会実行委員会	副 会 長	大 前 園 山 村 誠 浩
	福岡大会実行委員会	編 集 部 員	中 村 誠 浩

「中体連組織の現状と課題」

～時代に応じた持続可能な中体連～

大阪府中学校体育連盟 副理事長

大阪市立旭陽中学校教諭 藤池 由香

大阪府教育委員会事務局 指導部

保健体育担当 指導主事 廣山真由美

〈提案要旨〉

大阪府は 33 市 9 町 1 村から構成されている。大阪中学校体育連盟については、8 地区で編成され、各地区中体連事務局及び担当が中心となって大会運営に係る役割を担っている。また、中体連に関わる状況については地域によって異なるため、それぞれの地区の特性を生かしながら、スポーツによる生徒の健全な育成を図ることを目的に取り組んでいる。

本研究では、各地区における中体連が直面する現状と課題に着目し、対応策の検討を進めながら、時代や状況に応じた持続可能な大阪中学校体育連盟の在り方を考える機会とする。

1 はじめに

大阪中学校体育連盟は、大阪府及び行政の郡単位の計 8 地区の中体連、525 校の加盟校で構成されている。現在、大阪府における中学生の人口は、ピーク時（昭和 61 年度 460,931 人）の 47.6%（令和 4 年度 219,494 人）であり、年々減少している。また、中学校数は、8 年連続で減少しており、合わせて教員数についても減少している。以上の状況により生徒・教員数減少による部活動の統廃合並びに、顧問の配置及び中体連組織の維持や運営等、あらゆる面において課題が山積している状況である。

そこで、各地区における中体連が直面する現状と課題を洗い出すため、各地区対象に「望ましい中体連組織の運営及び諸課題への対応について」調査を行い、結果をもとに、課題について対応策の検討を進める。



2 中体連の体制についての課題

- ・生徒数の減少により、教員の数も減り、部活動の存続が難しくなっている。(※1)
- ・地区中体連内で市を超えてのデータ等情報共有がしにくい。(※2)

3 持続可能な中体連組織の構築についての課題

【生徒数・教員数の減少について】

- ・生徒数減少により、合同チーム等の必要性が生じている。(※3)
- ・運動部の指導ができる教員の減少や活動場所の問題もあり、拠点校方式も活用する必要がある。(※4)
- ・教員数が減少し、複数顧問の体制での指導が難しい。

【教員の部活動に対する意識と働き方改革】

- ・働き方改革を推進する中、「60 時間を超える長時間勤務の教員の部活動指導」を継続するわけにはいかなくなっている。(※5)
- ・クラブチームや他の習い事等、生徒・保護者のニーズが多様化されるとともに、働き方改革に伴い、教員の部活動指導への意識も多様化され、学校内での部活動の意義が統一し難くなっている。(※6)

4 課題についての検討策（今後の展望を含む）（2※1・2、3※3～6 各地区で共通する課題）

(1) 中体連としての対策（※1～4）

- ・役員等の配置人数の抜本的な見直しやブロックの再編成
- ・ICT 機器の活用（オンライン会議等の導入）
- ・各競技部における合同チーム・拠点校チーム等の編成について柔軟な対応
- ・大会数の見直し
- ・大会運営の見直し
- ・大会運営業務を担う教員以外の人材の確保（部活動指導員含む）
- ※財源の確保方策の検討
- ・ゲーム形態の見直し（トーナメント方式をリーグ戦方式へ変更等）

※包括協定を結んでいるプロスポーツチームによるリーグ戦開催

（学年別・年齢別・競技力別などカテゴリーを決めてリーグ戦を実施。リーグ戦終了後プロ選手からの技術指導やプロ選手の練習風景等を見学等）

※各リーグで会場を確保することができるため、効率良く大会数を確保すること

ができる。

- ・各競技団体との連携
 - ※協会からの人材の支援（大会運営・組織づくりの助言）
 - ※各大会の審判員を派遣・審判員の研修
 - ※財源の確保方策の検討
- ・指導者の指導者資格の規則化

(2) 行政への支援要望

- ・部活動指導員の配置（部活動に関わる業務全てを担う）
- ・大会運営に関わる運営費等の支援
- ・大会会場の予約、確保
- ・教員支援に向けた、部活動指導や大会運営に関する柔軟性を持たせた制度改正

(3) その他

- ・拠点校方式による部活動のチーム等の編成に関する規則の制定
- ・生徒や保護者等のニーズ、部活動の設置や運営が困難な学校の状況等を踏まえた、生徒にとって望ましいスポーツ活動が可能となる環境づくり
- ・多様なスポーツ体験ができる環境づくりとともに、大会における複数種目への参加が可能となるような制度設計

【参考】

調査報告（一部抜粋）

アンケート調査

＜調査対象＞ 大阪市立中学校から抽出（57校/128校）教職員・生徒・保護者

＜調査内容＞ 大阪市立中学校における部活動に関する調査

設問）部活動をすることの負担感について

（※負担…心やからだにしんどさを感じること）

【負担なし】

教職員…18.9%

生徒…54.1%

保護者…57.5%

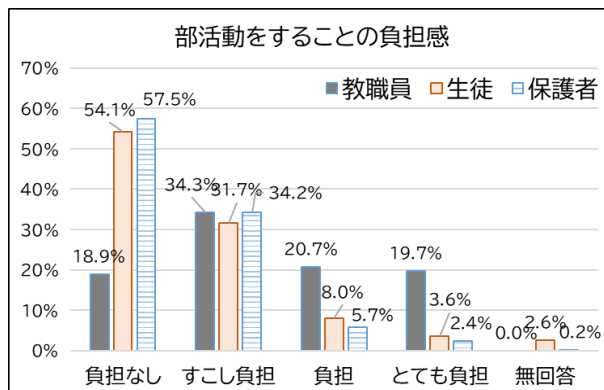
【負担度の差】

教職員と生徒の差

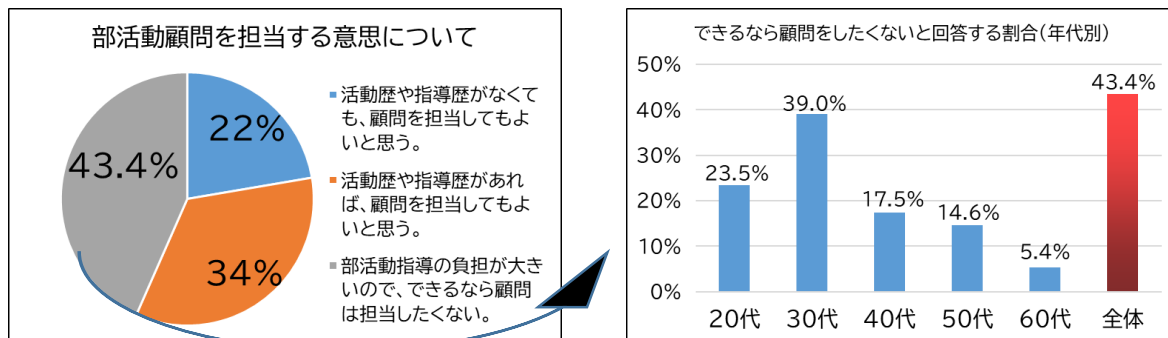
35.2%

教職員と保護者の差

38.6%



設問) 部活動顧問を担当するにあたって、ご自身の考えについて



活動歴・指導歴がなくても担当してもよい…22%
 活動歴・指導歴があれば、担当してもよい…34%
 負担が大きいため、できるなら顧問は担当したくない…44%

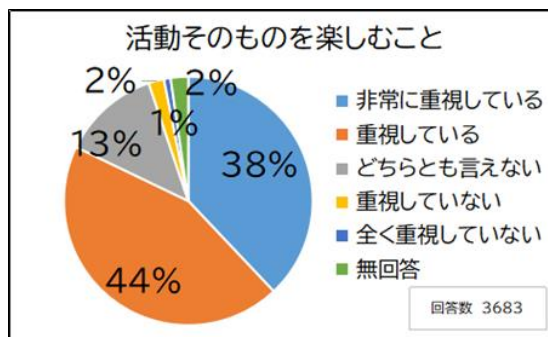
顧問は担当したくない
44%

設問) 部活動に取り組む際、重視していることについて

【活動そのものを楽しむこと】

非常に重視している…38%
 重視している…44%
 どちらとも言えない…13%
 重視していない…2%
 全く重視していない…1%

重視している
82%



(2) 調査結果

大阪市の抽出された学校での調査報告であるが、現在、指導に携わっている教職員の80%は少なからず負担に感じおり、44%は顧問を担当したくないと回答している。

一方で、82%の生徒は「活動そのものを楽しむこと」を重視していると回答していることから、教員の負担軽減を進める中で、中学生がスポーツ活動を「楽しめる」環境整備を実現させる必要がある。

5 おわりに

今回の調査は、大阪府の現状と課題、大阪市の部活動に対する意識に関してであるが、同様の課題を抱える地域は少なくないのではないかと考える。

今までの「部活動」の考え方について、新しい中体連組織を構築する中で中学生が今後も継続して自主的にスポーツ運動に関わり、活動を通じて豊かな教養と幅広い人間性を育むとともに、心身ともに生涯健康な生活を送ることができるようなスポーツ環境づくりをめざしていきたい。

地域の実態に応じた中体連主催大会の在り方

～特色ある運営と今後の展望～

徳島県中学校体育連盟 理事長

徳島市徳島中学校教諭 賀好 行彦

<提案要旨>

本連盟は、発足より75年を経過しています。この間、様々な変化はあったものの、歴史を感じる伝統ある組織運営を引き継いでいた。しかし、70年余り以前の当初と現在では、学校・教職員・生徒数において過疎化が歴然と進んでいる。そのため、主催大会の開催においては、運営内容の再検討の必要性や、改善が求められた。

この状況において、本県的主催大会の変容について紹介し、さらには、現在の運動部活動地域移行との関連を踏まえ今後の課題を掴みたいと考える。

1 はじめに

(1) 徳島県中学校体育連盟の組織と現状

徳島県中学校体育連盟（以下県中体連）は、昭和22年の設立から今年で75年を迎えた。

徳島県の地形は、東西に吉野川という一級河川が流れていて、川に面する地域と、海に面する地域、山間部など多くの自然に囲まれた地形の県となっている。

自治体の区分は、8市8郡（16町村）。中学校は公立・私立・国立を合わせて85校が本連盟に加盟している。

全国的に生徒数の減少による過疎化が進む状況はあるが、本県の加盟校生徒数は令和4年度で17,501人となっている。この数字は、全国的に見ても、ここ数年は常時5位以内をキープしている。

●加盟生徒数と学校数の推移

年度	生徒数(人)	学校数	年度	生徒数(人)	学校数
令和4年度	17,501	85	平成5年度	32,809	94
平成25年度	21,062	88	昭和58年度	35,738	105
平成15年度	24,982	93	昭和48年度	39,047	

(2) 本連盟の主な競技会（県レベルの大会）

ア 徳島県中学校総合体育大会（以下県総体）

イ 徳島県中学校郡市陸上競技大会（以下郡市陸上大会）

ウ 徳島県中学校駅伝競走大会（以下県駅伝大会）

- a 各競技における徳島県中学校選手権大会（以下県選手権大会）
- b 各競技における徳島県中学校新人大会（以下県人人大会）
- （3）本連盟下部組織（郡市中体連）の主な競技会
 - ① 県総体各ブロック大会（県総体予選大会）（郡市総合体育大会）
 - ② 郡市陸上競技大会（郡市陸上大会予選大会）
 - ③ 郡市駅伝競走大会 ④ 郡市ブロック新人大会（郡市新人大会）

2 本県における競技会の運営

（1）開催の主催（主管）について

- ① 県中体連（県教育委員会） ② 県協会・連盟 ③ 郡市中体連（市町村教育委員会）

県総体・郡市陸上大会・県駅伝大会の3大会については、本連盟が主催とする大会。県選手権大会・県人人大会の2大会は各競技の協会・連盟が主管する大会。下位大会（予選大会を含む）については、郡市中体連（市町村教育委員会）が担当する。古くからこの住み分けがあったが、協会・連盟・関係機関（教育委員会など）と話し合い、平成30年に整備が完了した。

（2）本連盟主催大会の運営の詳細

ア 大会の開催日程について

主な競技会は、学校行事として扱っている。ほとんどが休日を利用して実施され、平日の授業日に影響がないような日程を調整して実施される。

イ 大会の運営費について

運営の主体となる団体が受け持つ。会場の調整や、経費について、主催（主管）が行うことによって役割が分担されている。

ウ 開催日程の特別なルール

県総体については、全中大会参加基準に沿って一人1競技とし、開催日程は各競技を会場優先で設定される。しかし、郡市陸上大会・県駅伝大会については、他の競技会が同じ日程に重ならないように、各競技の協会・連盟と連携をとり、加盟校生徒が在籍校から選出され代表選手として出場できる体制をとっている。

3 県中体連の大会運営についての工夫

（1）過疎化への対応策としての取り組み

- ・県総体予選大会（郡市総合体育大会）の実施方法の見直し

全国的に同じ状況の過疎化については、本県でも年々減少していく加盟生徒数から歴然としていた。本県の40年前の加盟生徒数は今の約2倍あり、部活動加入率も数十ポイント高かった。さらには、部活動数（チーム数）も多く、多くの教員で大会が開催され運営することができていた。しかし、現在と昔の状況を多方面から再検討し、県総体の予選大会の実施方法を現代に合う形に見直しをする時期に差し掛かっていると考えた。

(2) 大会の開催方法の変更にあたっての準備

① 話し合いの流れ

(名称の変貌：地域→ブロック)

年号	令和元年		令和2年								令和3年						令和4年	
月	7月	8月	1月	3月	5月	6月	7月	8月	11月	11月	1月	3月	4月	5月	7月	10月	6月	
会議・内容など	提案	地域区分 検討	地域区分 案の提示	地域区分案 意見集約	集約した意見の 検討	県中学校長会への 情報提供	地域区分の数 検討	大会開催の問題点の 集約	区分数・問題点の 再検討	区分数の決定	文書で通知 関係諸機関	大会実施方法の 共通事項検討	検討事項の 再確認	検討事項の意見 集約	県総体の実施方法の 決定	開催に向けての 検討会	地方紙で報道を 依頼	6月～ 大会実施
会議の種類	○	△	△	△	○		○	△	●		△	△	△	○	○			
会議の種類凡例 ○：県中体連評議員会、●：県中体連臨時評議員会、△：県中体連役員研修協議会																		

② 懸案事項や問題点について

懸案事項は発案の度に、郡市中体連（16郡市）・競技専門部（21専門部）へ発信し、返答を促した。毎年2名から3名ほど郡市中体連理事ならびに競技専門部長を兼任する者がいるが、それぞれの立場で考え意見を回収することができた。

(評議員・郡市中体連・専門部から寄せられた意見)

ア 地域区分について

最終は6ブロックになったが、当初の予定では5ブロックの検討もあった
学校数や加盟生徒数、体育施設等の環境面から大分した。

イ 開催にあたっての運営費の運用について

郡市中体連において、中体連費を集金しているが集金方法が様々であったこと。

(対応策) 大会運営に関して運営協力金として大会経費を郡市中体連毎に持ち寄る方法などで対応。

ウ 市町村補助金の請求などが新たな形になることについて

郡市の自治体によって補助の形態が違っていたため。

(対応策) 郡市中体連会長と、関係地区中学校校長会の協力によって市町村教育委員会の協力を得る（単独開催で無く隣接する市町村と共に実施する大会であっても協力いただく）ことができた。

エ 大会準備にかかる事務などの業務

(対応策) ブロック代表理事を決めて、ローテーションで持ち回ること。

③ 公開の方法

ア 文書での発送

(ア) 地区（郡市）ごとに関係市町村教区委員会への説明と案内を実施

(イ) 県中学校長会への説明・協力の依頼

- (ウ) 郡市中体連から各校への案内 (エ) 県中体連事務局より案内
イ 地方紙（新聞社）からの広報

記事に取り上げてもらい実施の内容について広報してもらった。

④ 大会後の課題など

- ア 連絡系統が慣れていないため、問い合わせが混乱した
イ 移動距離が伸びた
ウ その他

⑤ メリット

- ア 運営に人手が増えることによって、安全に大会が運営できた
イ 大会に活気が出た
ウ 市町村の協力で、充実した体育施設で競技ができた
エ その他

(2) 地方大会の在り方の整理

はじめにの章で述べたように、本県では県新人大会【(2)－b】と、春の県選手権大会【(2)－a】については、県教育委員会のご理解とご協力の下、3者共催での開催となっている。大会の運営の形態は、競技協会・連盟主管の形で大会を実施している。

競技会（県選手権・県新人大会）の開催にあたっては、準備（会場の確保、競技役員の手配）、大会中（競技の運営、大会中の安全管理）、大会後（大会経費支出、大会補助）などを競技団体によって、安全にかつ適正に施されている。

この方法は以前からあったが、主催が明確で無かった。そのため、ある人物は、中体連競技専門部長であり、協会・連盟の中学部で競技部長でもある、という競技が多くあった。内情に長けている者なら人を認識できるが、無関係の人からすると役違いの人違いと思い、仕事は2人前になることもしばしばあった。しかしながら、この方法をとることで、周囲の関係者の意識が保たれるようになり、仕事の分配などが明確化され、部長の負担軽減につながっているように思える。

4 おわりに

この度は、本連盟主催大会の運営方法の変容を、説明しました。物事を変えるときには時間と労力が必要であること、粘り強く考え通すことが大切だと感じました。発表した様なたわいもない内容でも、変えるのには3年かかりました。まだ、問題は山積しております。現在、運動部活動の地域移行という話題が世間を騒がしていますが、このスピード感で余裕なのかは不安です。来年度令和5年度には全国中学校体育大会が四国4県で行われます。令和4年6月に出された、参加資格特例への対応に追われています。本県では、現在588の部活動（※①）が存在します。行く先はいかなるところに向かうかは不明ですが、中体連としてはこれまで培ってきた経験と能力や組織力を生かし、子供たちをできる限り多くの選択肢で、スポーツと親しめる環境につなげていくことが今後の課題となり得るかもしれないと考えました。

（※①：日本中体連加盟競技部活動数）

「コロナ禍における新たな取組」

鹿児島県中学校体育連盟 副理事長
阿久根市立鶴川内中学校 釜付 純次

＜提案要旨＞

本県中体連は発足以来、74 年間、多くの先生方が力を合わせて、県中学校体育の振興を図り、生徒の体力・技能の向上及びスポーツの発展に取り組んできた。そして、中学校教育の一環として、スポーツ実践の機会を創出し、スポーツの発展並びに体力・技能の向上とアマチュア精神の高揚を図り、心身ともに健康な中学校生徒の育成と生徒相互の親睦を図るために、県中学校総合体育大会を開催している。昨今、運動部活動を取り巻く環境は、部活動生の減少による複数校合同チームの増加や生徒、保護者の多様なニーズに応えるための顧問の指導力向上、熱中症や新型コロナウイルス感染症の感染防止に配慮した運営など大変厳しい状況に変わりつつある。さらに、本県においては、多くの離島があるという特性や生徒数の減少が著しい地域における中体連主催大会の現状と課題、今後どのような大会運営を行っていくべきかを考える機会にしたい。

1 はじめに

本県には、南北 600 キロメートル(図 1)に及ぶ広大な県土の中に、美しい自然環境が織りなす四季折々の景観、特色ある島々、奥深い歴史を感じさせる名所、良質で豊かな温泉など、魅力ある観光資源が豊富にある。薩摩半島、大隅半島の二つの半島と、種子島、屋久島、奄美大島をはじめとする多くの離島があり、有人離島も 28 ある。離島人口(182,602 人)及び離島面積(2,485 平方キロメートル)は全国第 1 位となっており、全国でも有数の離島県である。

本県中体連は、10 の地区中体連で編成されており、そのうち 2 つの地区が離島である(図 2)。また、図 3 より、平成 17 年には 58,577 人だった生徒数が令和 3 年には 45,294 人に減少し、部活動加入生徒数は 42,254 人から 25,869 人に減少し、加入率は 72%から 57%に減少した。部活動加入生徒や加入率の減少の理由は、生徒数減少により廃部となる部活動が増え、生徒や保護者の多様なニーズに応えられなくなったことや、地域のスポーツクラブやクラブチームへ在籍する生徒が増加したためであると考えられる。



図 1 南北 600km の鹿児島県

鹿児島市郡中体連	南薩地区中体連	日置地区中体連	川薩地区中体連	出水地区中体連	始良・伊佐地区中体連	肝属地区中体連	曾於地区中体連	熊毛地区中体連	大島地区中体連
----------	---------	---------	---------	---------	------------	---------	---------	---------	---------

図 2 県中体連組織図

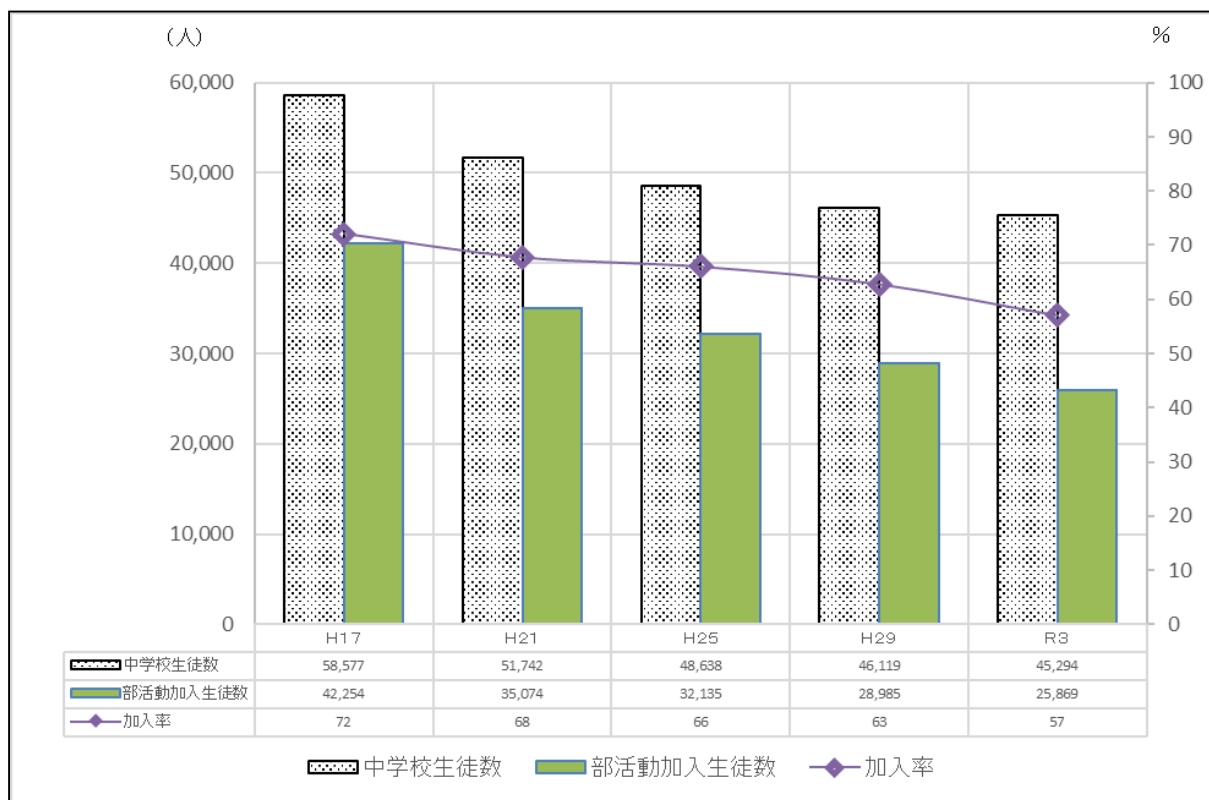


図3 鹿児島県の中学校生徒数、中学生運動部活動加入生徒数及び中学生運動部活動加入率の推移

2 コロナ禍における本県部活動の現状と課題

令和2年度は、新型コロナウイルスの急速な感染拡大により、ほとんどすべてのスポーツイベントが中止もしくは延期を余儀なくされた。本連盟主催の令和2年度夏季中学校総合体育大会についても全面中止となった。その後、入場者管理及び大会前からの体調記録の提出など、鹿児島県中学校体育連盟主催大会実施上の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに則って開催できるようになった。令和3年度及び令和4年度においても、各地区の事務局、専門部はじめ、県中体連一丸となって、生徒が目標をもって意欲的に取り組めるように準備を進め、すべての大会を開催することができた。そのことで、部活動を通して、生徒たちは「コロナ禍で人との付き合いが薄れてきているなか、友達と一緒に活動ができて嬉しい。交流の大切さを改めて感じた。」顧問は「コロナ禍で大会等が開催できないこともあったが、大会を実施できるように整備していただきありがたい。他校の顧問との会話や生徒との会話が増えることで意欲の向上につながった。」そして、学校全体としては、「学校の活性化、生徒指導の充実、特色ある学校づくり、家庭・地域との信頼関係の構築など、よい評価に繋がった。」等の成果が挙げられる。

その一方で、地方大会や練習試合、合同練習会などの制限が入り、選手の競技力向上や意欲の継続が課題となっている。また、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながらの大会運営には、役員や時間、場所、運営費などが、従来よりも確保しなければならないことも課題の一つとなっている。特に、離島では、感染リスクに対する危機意識が高く、本土や他の離島への交流が極端に減少し、大会や練習試合の機会を失った選手たちの、モチベーション維持や競技力の向上が深刻な課題となっている。

3 コロナ禍における新たな取組

コロナ禍により、大会や合同練習会が中止になることが多い中で、各競技部が選手のモチベーションや技術向上のために、新たな取組を模索した。図4は、陸上競技部が新たに企画した、リモートコントロールテスト実施要項である。また、図7は弓道競技部が新たに企画した、鹿児島県種子島ロケット弓道通信大会実施要項である。それぞれの企画で、リモート形式で自己の成長を確認できる機会となり競技力の維持向上に繋がった。また、自己の基礎体力を知ることによって、これまでの練習成果を確認し、今後の課題を見つけることができた。

令和3年度 鹿児島県中学生リモートコントロールテスト 実施要項

1 ねらい

- (1) 自己の基礎体力を知ることによって、これまでの練習成果を確認し、今後の課題を見付けることができる。
- (2) 鹿児島県全体でのリモート形式とすることで、自分とライバル選手との記録を比較することができる。
- (3) 冬期練習のモチベーション向上や昨年度の結果をもとに、来シーズンへの目標設定に生かすことができる。

2 実施種目

- (1) 50m走 (スタンディング、スパイク〇、タッチダウン×)
- (2) メディシンボール フロント投げ (男子: 3kg, 女子: 2kg)
- (3) メディシンボール バック投げ (男子: 3kg, 女子: 2kg)

※ (2)(3)は、投げた後、ラインから出て良い。

- (4) 立ち幅跳び (足を砂場の線につけて良い)
- (5) 立ち五段跳び (スパイク〇)
- (6) 300m走 (スパイク〇)
- (7) 1000m走

※各種目の実施場所は、オールウェザー、土、その他(体育館等)それぞれの練習場所で行う。

2 実施期間及び申込期日

- (1) 第1回 11月 1日～11月30日 [〆切 12月1日]
- (2) 第2回 12月 1日～12月31日 [〆切 1月7日]
- (3) 第3回 1月 1日～ 1月31日 [〆切 2月1日]
- (4) 第4回 2月 1日～ 2月28日 [〆切 3月1日] 計4回実施

3 実施方法及び申込方法

- (1) 各学校・チームの練習にて、上記種目のコントロールテストを実施する。
※すべての種目を行う必要はない。実施できる種目だけでも良い。
- (2) 鹿児島県陸上競技協会中部ページから、入力ファイルをダウンロードし、必要項目及び実施したコントロールテスト種目の記録を入力する。個人で申し込む場合は、入力フォームからでも申し込むことができる。
- (3) メールにて、下記の申込先へ送信する。入力フォームの場合は下記QRコードから入力フォームへ。
申込〆切期日を厳守すること。

<申込先> メール件名 (例) ○〇中第〇回コントロールテスト

メールアドレス 2020kga@gmail.com



4 結果掲載について

- (1) 集約された記録をランキングし、鹿児島県陸上競技協会ホームページ及びSNSにて結果を掲載する。
- (2) 結果掲載は、担当者が記録を集約でき次第、アップする。



図5 300メートル走の様子



図6 立ち幅跳びの様子

図4 令和3年度鹿児島県中学生リモートコントロールテスト実施要項

【成果】

- 大会を実施しないシーズンオフの時期での練習の成果を確認でき、県内での自分の順位を把握することができる。
- 期間を長く設定することで、もともとの専門でない種目にもたくさん参加できることで、シーズンに向けて種目変更を検討するきっかけとなる。
- 大会会場に集合しなくても参加でき、顧問に指導の経験がなくても参加しやすい。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、自分とライバル選手との記録を比較することができ、選手のモチベーションの維持につながった。

【課題】

- インターネットでの順位公開のため、個人情報の管理が大切になる。
- 実施条件が同じではないため、正確な順位が確認できない可能性がある。
- データを入力して送ることに不慣れで、不便さを感じる指導者もいる。

第1回 鹿児島県種子島ロケット弓道通信大会	
1 実施期間	令和4年 5月28日(土)29日(日) 2日間 団体・個人戦
2 日程	個人 団体 5月28日(土)29日(日)の2日間で実施し、その結果は 5月30日(火)12:00まで に事務局宛に送信してください。未送信は辞退と判断します。大会結果は6月3日(金)までに一斉配信する予定です。競技開始前にLINE・ショートメール等にて予選開始連絡を「はじめよ」とお知らせください。記録は必ず〇×形式で記録し報告する。報告内容は各生徒氏名、男女、学年、団体的中数、個人的中数データです。
4 会場	各学校弓道場 または、弓道場であればどこでも・・・
5 参加制限	(1) 団体男女チーム制限無し(混成不可) (2) チーム編成は、監督1名、選手3名とする。個人戦のみも可 補欠交代はしない。 (3) 選手2名以上3名までを団体とみなす。
6 競技規則	全日弓連競技規則による。弓道着袴とする。 厳正な雰囲気、間違い・不正等のないようにしましょう。 競技は、その日の0時から24時までの一日の間で行射した的中数(「はじめ」前は的前練習可・途中休憩巻藁ゴム弓可・途中的前練習不可)にて実施する。ただし、チーム数の多い場合は男女等で分けて別日で実施してよい。
7 競技方法	団体、個人 行射 立射 三人立ち 各自12射(四ツ矢3回) チーム計36射とし、同中の場合は、一回目1本目からの3人の的中数の合計の多い順に決定する。 個人の同中の場合も1回目1本目からの的中を射詰めと見なす。
8 参加料	無料
9 表彰	団体競技 男女各3位まで 個人競技 男女各5位まで
10 参加申込	参加申込は下記アドレス宛に連絡し、記入様式(エクセル)を取り寄せること。問い合わせをもって参加申込とする。事前のチームのエントリーは無しとします。
11 その他	表彰については、終了後 表彰は各学校にデータを送りますので、それぞれプリントアウトしていただき、表彰してください。
12 共通理解事項 正しい記録方法	3人立ちチームを構成して、「はじめ」の合図で始めたところから、予選四ツ矢3回の記録をします。ぜひ審判役(監督等)が判定して的中を確認してください。 以下のようなことはないようにお願いします。 (1) その日の調子の良いそれぞれ別チームの生徒3人の記録を合計。 (2) たくさん引いて良い記録のみを3回分提出。 (3) 的枠が割れて変形していたり、規定の大きさではない的を使用。 (4) 「はじめ」で始めたものの的中が悪いのでやり直し・・・ (5) 生徒が適当に結果を書き換える。 (6) 顧問不在で、生徒だけで実施。 (7) 提出期限をオーバー。



図8 本土からの通信大会参加の様子



図9 離島からの通信大会参加の様子

図7 令和4年度鹿児島県種子島ロケット弓道通信大会実施要項

【成果】

- 大会日程を長くしたため、各学校の状況に合わせて、無理なく実施でき、25校の参加することができた。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大会が中止になっている中、オンライン大会を実施することができ、選手のモチベーションの維持につながった。

【課題】

- オンラインで互いの様子を見ながら実施できるとよいが、参加校が多く難しい。
- 緊張感を高めるなら、男女別で日程を決めて、全学校同日、同時間帯で行うとよいのではないかな。

4 おわりに

鹿児島県中学校体育連盟は、「県中学校体育を振興して体力の向上に努め、スポーツの正常な発展を図る」ことを目的としてきた。しかし、コロナ禍において、多くのスポーツイベントが中止となつて、生徒の競技力向上および健全育成に課題がでてきた。そのような中で、鹿児島県中学校体育連盟主催大会実施上の新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインの作成やリモートコントロールテストなどの新しい取組を始め、心身ともに健全な中学校生徒の育成に励んでいる。今、中体連は大きな転換期を迎えているが、本県としても全国の状況を注視しつつ、各地区の実態を踏まえ、教育委員会や競技団体との綿密な連携を図り、時代を切り拓いていくという強い意志と団結力で挑戦・努力を今後も続けていきたい。